第3回奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事要旨

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 奥出雲町人口ビジョン（案）について

（事務局より資料1に関して説明。）

黄色マーカーに関しては補足、修正行った部分である。

（事務局）

前回の審議会で、税収等を中心として財政の推計についてもビジョンが必要ではないかという意見を頂いた。持ち帰って検討したところ、人口以外の条件設定、推計の仕方によって答えが大きく違ってくるということもあり、本日は紙面での情報提供は控える。

平成25年度の決算では、税収は約12億4千万円、歳入全体は約156億円で税収が1割に満たない。町の収入の大半が国からの地方交付税で賄われており、これが約70億円となっている。地方交付税は人口の大小に関わらず、必要最小限のサービスが行えるよう税の再配分、また、財源保証機能をもって措置されている国の制度である。人口だけでは収入全体が決まらないのが、推計が定まらない主な理由。町で5年間程度の中期財政計画を作っているが、その推計手法を用いて社人研の2040年の8,067人を考察した場合、税収は約7億3千万円、ビジョンの推計人口10,292人をベースに考えると税収は8億円程度が算出される。歳入総額については、社人研の推計では85億円程度、ビジョンであれば101億円。また、国は、人口規模、産業別就業人口の状況に基づいて全国1700団体を分類している。奥出雲町が約14,500人で第2次、3次産業の就業人口が80%以下、類団としては3-0類型となる。類似団体の人口1人当たりの歳入総額は約74万円。ビジョンに基づく人口だと、歳入総額は約76億、税収は9億8千万円という推計になる。このように条件により推計値が異なり、ブレも出る。人口シミュレーションの中では人口減少があっても地方交付税がある限りは一定の補てんがされるということをご理解いただきたい。

（会長）

前回も1万人を目指すということで認識している。人口ビジョンそのものは町が決定するが意見を基に決定する。推計する根拠が少し変動した。

（委員）

地方交付税で補てんがきくということだが、国に頼っているということになり、国が減らすと言えば計画を練り直し、何かを減らしていかなければならないと思う。

（事務局）

確かに、地方交付税が未来永劫続くとは限らない。しかし、現状の地方自治制度がどうなるか、予測で推計することは現実的ではない。変更があれば都度財政推計の変更で対応していきたい。

（委員）

急に交付税が減った場合、施策を何か減らさないといけませんが、優先順位をつけたりはしないのか。

(事務局)

予算の編成は町長が行い議会の議決を経て決定する。都度、議会の承認を得てやるので未来の事は判断しがたい。具体的な事業に関してはその都度優先順位を考えていくということになる。

(会長)

人口ビジョンを推測する判断材料として税収も関係あるので説明いただいている。施策の中身については総合戦略の中で見直す。

(事務局)

総合戦略は5年ごとに見直す。

(委員)

38ページの条件アと条件エについて。条件アについて、2020年から段階的に出生率の回復を図っていくということだが、2016年～2020年の施策と2020年からの条件設定において、この5年間をどう考えていくのか。

また、条件エについて、高校自体の生徒数が減少しているという話がある。高校は、両中学校からの入学者が大半。高校という形で捉えるべきかどうか。両中学校の出身者の中で、高校進学時に町外へ流出する場合もある。これに対する対策もすべきではないか。

(事務局)

条件アについて、総合戦略に基づいて目標値を設定しているため、「具体的にこの取組みによって出生率を上げる」という考え方ではない。

条件エについて、様々な高校があり、全体的な進学対策は中学校教育の中で行っていきたいと考えているが、町としては地元高校の存続の危機に焦点を当てた取組みを重点化していきたいという考えからあえて高校卒業生に限定して設定している。

(委員)

条件エに関して両中学校に対しての取組を行う一方で、高校に対して施策を行うことで理解した。条件アに関して、2016年のから出生率回復については数値目標を達成するための取組を行い、2020年から段階的に行なっていくわけではないということに理解した。

(事務局)

3月議会でも平成26年度予算に補正予算として、例えば子育て施策に関するパンフレットを配布するといった取組等、子育て施策に対する予算措置等もあるため、既存事業との組み合わせで目標値を達成していきたいと考えている。

(会長)

戦略に基づいて取り組んでいくが、戦略がなくても少子化対策はやっていくべき。その中で人口ビジョンを作るにあたってシミュレーションの推定値として掲げている。目標値にも成りうるとは思うが仮定値に過ぎない。

(委員)

ビジョンを持つことは大事だが、現実対応の積み重ねの先に目標が達成される。一つ一つの対応が今後重要になってくる。自社ではここ10年新卒を採用している。全従業員の30%が独身である。人口減少を止めるための緻密な努力を積み重ねた上でのビジョンを設定していかないと、ビジョン達成の要件だけではいい結果は生まれない。現実を厳しく見直してビジョンを描かないと、実

現性の無い計画になってしまう。ビジョンを描く前に今やることが何なのかをはっきりとさせないと3年後、5年後も同じ事の繰り返しになってしまう。町の将来を担う子どもをどう育てていくのか。ただ町内に残っただけでは意味がないので現実対応を意識したビジョンがベースにないといけない。

(会長)

いろいろな議論もあるが、この短い期間の中で現状の成果と課題を検証していくことのご指摘として受け止める。事務局には、後追いでも良いので現状認識の報告をお願いしたい。

(委員)

これだけの将来のビジョンを掲げておきながら、例えば高校の3年生に対して、何を考えているか、どうして町に留まらないのかを調査できているのか。今日からできること、今できているのか。それが一番大事。新卒で採用しようにもなかなか目にとめてくれない。幸いこの10年新卒で採用した者の離職はない。表面だけの事ではなく、企業として地域の担い手に育てるにはどうしたらいいか。目の前の子達に対してビジョンをどう提示するか。

(会長)

現状やっていることが目に見えるといい。人口ビジョンは根拠になる数字によってずいぶん数字が変わってしまう。若い世代が多い町は出生率が0.1 ずれるだけでずいぶん変わる。正直推測の域は出ないが、現状からシミュレーションができる。

前回の審議会でもおおむね1万人が妥当だという認識であった。今回、多少変えてもやはり1万人が妥当であるというのが事務局からのご提案である。概ねこういう状況で、これ以上シミュレーションが変わることはないだろうと思うがいかがか。審議会の度に関わるようでは、私たちの決定は何だったのかということになる。

(2) 奥出雲町総合戦略(案)について

①分科会長からの報告

(まちづくり)

□施策の方向性について

- ・施策の方向性は了承された。

□地域コミュニティについて

- ・施策のコミュニケーション等の提言に関しては特定の高齢者男性の意見がほとんどで、若者と女性の意見がもっと取り上げるべき。
- ・コミュニティの体制づくり、組織作りを検討する。

□たたらについて

- ・たたら遺産は世界遺産を積極的に打ち出すべきだという意見が上げられた。

□その他全般について

- ・ひと、しごとの関係が強い総合的な分野。抽象的にしかまとめられない。
- ・自然、文化、産業を前面に打ち出していくべきだ。観光、伝統、エゴマ。今あるものを有効に、積極的に活用すべき。
- ・医療、福祉、里親支援、IU ターンの積極的な受け入れを行うべき。

- ・委員は立場が違うが思いを十分持っている。限られた時間で具体的にまとめるは難しい。

(ひとつづくり)

□基本目標について

- ・「ふるさと奥出雲を愛するひとつづくり」に「ふるさと」を付けるかつけないかという議論があった。

□施策の方向性、施策について

- ・施策の方向性、施策は原案を承認した。
- ・婚活は外部と連携を図る。
- ・キャリア教育の推進案は歴史や文化、自然、スポーツ、陶芸、伝統産業、専修学校、空き家等を活用した体験や交流ができる場、又そのための支援についてご意見をいただいた。
- ・定住についてのアフターフォローについて、民間団体との連携の提案。
- ・現在やっている事業の検証、評価に基づいた今後の施策の構築が必要でないか。
- ・事務局から提供された基本目標、施策の方向性について了承した。

(しごとづくり)

□施策の方向性、施策について

- ・施策の方向性、施策は原案を承認した。

□キャリア教育について

- ・企業を理解する時間が必要ではないか。
- ・進学者をいかに地元に帰すか、進学者に対する情報発信が必要、企業自身の情報発信不足。
- ・地域の魅力を伝えるための戦略が必要。
- ・Iターン者受入に関して、本人だけでなくその家族に対する支援がとても重要で必要である。

□農林業に関して

- ・農業の担い手として建設、土木業が新たな担い手となりうる。兼業についても検討が必要。
- ・林業に関して、豊富な森林資源を活かす視点から必要。

□医療・福祉分野

- ・人材を地元で育成する。関連して医療福祉農業のコースを高校に作る事を検討すべき。
- ・施策の方向性について奥出雲町らしさが欠ける表現内容があるため、再検討する。

(事務局による補足説明。)

(事務局)

まちづくりは、総合戦略(案)の2ページ、施策の方向性では「自然と共生する地域づくり」の「豊かな自然を活かした暮らしの実現」「たたら景観の維持・活用」は一緒にしてもいいのではないかという意見があったが、たたらに関しては世界遺産に向けた取組みが必要ではないか、また、たたらこそ奥出雲らしいという意見もあり、分けてある。

ひとつづくりは、基本目標の「ふるさと奥出雲を愛するひとつづくり」の「ふるさと」を削るか、想いをもっと伝える説明をすべきという意見があった。説明部分で「ふるさととして」にする事でI

ターン者にも疎外感なく浸透する表現にした。

しごとづくりは、「奥出雲の強みを活かした産業の支援」に変更した。施策の「地域産業の競争力強化」「人と仕事のマッチング支援」「産業人材の育成、担い手の確保支援」も変更した。変更の理由に関して、奥出雲の強みを活かした産業づくりが必要になるためである。地域産業に関しては、医療福祉分野は女性が支える重要な分野になっている。また、県外の大学生や地域外も対象にするため、今後雇用の拡大が期待される、医療福祉分野に対して産業人材の育成、担い手支援に変更した。

(会長)

本日の審議会では3ページの骨格を決定させていただきたい。

(委員)

施策が大きく3つあり、専修学校に関してはひとつづくりに入っているが、自分自身はまちづくり分科会に属している。その立場でまちづくりについて考えろということなのだろうが、卒業生を町内に残すとか、そういう話には私も入ったほうが良いと思う。お互いに大きく関連している。最終目標としては人口の増加を図るという事が目的であれば所属は別とし発言しても良いのか。

(会長)

わかりやすく3つに分けているが、相互に絡み合っている。分科会において発言されてもよい。目的としては人口増加を図るというより、減少を抑えるというのが本来の意味だと思う。

(委員)

専修学校として何が出来るかということを考えている。卒業生あるいは定住者の統計等を集計しつつあるが、そういうことをすればするほど、ひとつづくりだなと思う。

(会長)

分野ごとに委員をかためてしまうと議論が硬直化してしまうことを懸念して、自分の分野を超えてご議論いただきたく、分科会を分けている。

分科会、審議会で審議いただいて了承いただいた基本的な体系をこの場で決定させなくてはならない。個人的には奥出雲らしさをもう少し強く出した方が良いと思うが、個別具体のことができていかないと次へ進まない。全て奥出雲町がやらなければならないことではない。同じような環境、条件のところと同じようにやっていかなければならないこともある。正直どこも同じでしょうという意見もあるが、否定されることではない。

今の段階で3ページについて骨格は了承されたということで良いか。

(委員一同)

了承する。

②奥出雲町総合戦略（案）

(事務局より説明。)

(事務局)

現状と課題については変更なし。既存事業については、基本的には継続実施。KPIについては、まだ候補の段階。必ずしも施策の内容と一致しない。

(会長)

次の分科会に繋がるご意見をお願いしたい。

(委員)

まず7ページ、女性の活躍機会の充実と17ページ、地域リーダーの育成について。女性の活躍機会の充実は非常に大事だが、女性だけというのはどうか。男性も意識的にリーダーを育成する必要がある。地域リーダーの育成に関しても様々な取組みにより、自覚をもったリーダーを育てる実践塾のようなものが必要ではないか。

8ページのKPI（用語の説明：重要業績指標）に自治会の加入率とあるが、自治会は互助組織として維持していくことが大事だが、それがそのまま町民の意見として上がっていくのが疑問。そういう点でこのKPIの設定が適切かどうか。もう少し違った視点での地域コミュニティの創設が必要ではないか。

18ページの日本版CCRC（用語の説明：東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要な医療介護を受けることができる地域づくりを目指すもの）の検討について。都会の高齢者以前に、町内でのCCRCを考えるべき。5～6人の集落の中で介護サービスを受けるという事が非効率。人材が間に合わない。奥出雲町に介護コロニーをつくるイメージで、奥出雲版CCRCをまず考えて、そういう仕組みがあって初めて外から人が入ってくるのではないか。

(委員)

11ページのたたらの景観について。景観というと町全体、山も含めたことだと考える。

最近、広葉樹が伐採・利用されず、ナラ枯れもはじまってきて、景観を損ねるのではないか。それに関して見解を示してほしい。

15ページのふるさと教育・キャリア教育について、「農業体験」を「農林業体験」という表現にしてほしい。

26ページの産業人材の育成について。現状と課題の4つ目の○のところでは高校生が漏れているのではないか。

(事務局)

ご指摘の通り、高校生が漏れている。高校生は入れておく。

(委員)

多岐にわたるが、実行が伴わないと戦略だけで終わってしまう。実現性の無い計画で終わってしまう。一抹の不安がある。施策を同時進行で行おうと思うと有能な人材と優良な組織がなければならぬ。それぞれの施策で成果を上げようと思うと大変だと感じた。我々も奥出雲らしさを理解しきれていないが「ふるさと」「豊かな自然」というのはその通りではある。ある山村では50軒程度の集落に毎年約30万人の人が訪れる。にも関わらず土産屋さんは1つくらいしかない。田舎の暮らしを背伸びせず維持してきた。その点、奥出雲は恵まれている。悪く言えば、他と比べると中途半端である。一つだけでもどうしても守り続けたい、誇りのようなものがないのではないか。どこにもないものは「源流」ではないか。これだけは絶対に守っていこうというこだわりがないとよその人が振り向いてくれないと思う。

(会長)

発言していただいた「誇り」に関する文言はずっと議論してきて、理念には盛り込まれているようだが、先ほどの委員のご意見は施策にもっと表出させるべきというご意見と理解した。

PDCA（用語の説明：計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）や実行段階について今の段階で述べられる事を事務局からご説明いただきたい。

（事務局）

PDCA サイクルについては記載する予定である。どのように評価して、どういう改善をするかという仕組みのところは次回審議会にはご提案させていただきたい。

（委員）

人口ビジョンのシミュレーションの一つに高校の卒業時の町外流出 5 名抑制とあり、また、15 ページの KPI 高校町内就職者数とあるが、現状としてはここ数年学年 100 人で来ている。2 年後には 80 人になる。卒業生 100 人中 20%が就職、30%が専門学校・短大、50%が 4 年制大学。4 年生大学 50%の内 40%が国公立、残りが私立。毎年 20 数名の就職希望者がいる。その中には自衛隊、警察、消防、公務員を希望する者がいるので全て町内と考えるのは難しい。だいたい 15~10 人が町内に就職。町内就職を 5 人増やすのはこれ以上難しいのではないか。むしろ、大学卒業時の 4 年後にどのくらい帰ってこられるのか、そういうものを目標設定にできるのではないか。

（会長）

人口シミュレーションみていただくと 38 ページと 43 ページで表現が違う。43 ページも 38 ページ同様、高校卒業時のこと言っているのか。

（事務局）

43 ページも高校卒業時ということ。

（会長）

今の基準で 5 人を抑制するという事か。

（事務局）

39 ページ条件エに記載の通り、約半数を抑制するという意味で書いている。

（会長）

毎年 5 人ずつ増やしていくのではなく、今の値よりも 5 人抑制するという事でも厳しい数字だと思う。まだまだ、いろいろ意見もあろうかと思うが、分科会に分かれてご議論いただきたい。

【分科会】

「まちづくり分科会」、「ひとづくり分科会」、「しごとづくり分科会」にて審議

【全体会】

「まちづくり分科会」、「ひとづくり分科会」、「しごとづくり分科会」の審議内容の報告

【まちづくり分科会の報告】

（分科会長）

7 ページの多様性を認め合う取組の推進について、男性リーダーの育成はひとづくりに盛り込んであるので、女性のままでいくこととする。KPI の町内事業者における女性正規雇用率は難しいの

ではないか。それよりも事業所における管理職割合に変更してはどうか。8ページの地域コミュニティの体制については、自治会長の意見が町民の意見ではないという発言があったのは、文章でどう表現するか、事務局に検討してもらおう。自治会のあり方、自治会長の任期について具体的に検討していく。KPIの自治会加入世帯率は再検討。9ページの地産地消はこのままで良い。10ページの豊かな自然を生かした暮らしの実現は、森林組合のことをきちんと記述すべきという意見が出た。具体的には再度検討。KPIについてはOK。11ページのたたらへの遺産登録、維持活用については、「日本刀」という文言を入れるべき。広葉樹の活用については10ページの森林資源のところでもりあげていく。会そのものが現実と向き合うのが精いっぱい細々したことを今後どう改良・修正していくかが課題である。

【ひとつづくり分科会の報告】

(分科会長)

12ページの結婚支援について、男性の未婚率にその年代の男女の人口を加えて具体的に分かりやすくする。成婚率を加えてはという意見もあった。13ページ②出産・子育て支援についてはこのまま。14ページ③仕事と生活の調和の実現はこのまま。15ページ④ふるさと教育・キャリア教育の推進については、「農業体験」を「農林業体験」に文言を訂正。KPIは高校町内就職者数(率)を削除。代わりにふるさと教育・キャリア教育の実施率と追記。高校の卒業後7~8割が一旦町外に出て、2年後、4年後に町内に帰ってきたかどうかを見たほうが良いのではないかと。他の分科会関係なく26ページ産業人材の育成、担い手の確保支援のKPIに入れてはどうか。16ページ⑤高校・専修学校の魅力化は、方向性はこのまま。KPIはしての入学者数も追加してはどうか。17ページ⑥次世代を担う地域リーダーの育成について、方向性は実践塾を立ち上げてはという意見が全体会であったが、中間支援組織に含まれるという意味合いで、方向性はこのまま。KPIの公民館講座の開催数に加え参加者数も追加すべき。18ページ⑦UIターンの促進について、方向性はこのまま。5年後の目指す姿のところで、「本物の幸せ」を「奥出雲の生活に魅力を感じ奥出雲へUIターンを希望する者が増えている」と記述した方がよいのではないかと。KPIは高齢者・経験者の起業率を入れてはどうかという意見があったが、24ページ起業・創業の促進に入れてはどうか。19ページ⑧空き家や若者定住住宅等を活用した住宅支援について、KPIは3世代同居住宅数と親元定住数を追記してはどうか。

【しごとづくり分科会の報告】

(分科会長)

前回の分科会の意見が反映されているためこれで概ね良いということだった。但し、記載内容について多岐にわたるということで実現可能かどうかというご意見があった。計画としては網羅しているが、あとは事務局に尽力いただくという事で承認いただいた。KPIについては、簡略化すべきという意見があった。

(会長)

この他にご意見がある場合は、8月20日ごろまでにメール、ファックス、口頭で事務局へご連絡いただけたらと思う。KPIの設定については、町で責任を持つということではあるが、国がチェ

ックしていくことに繋がる。今後のことも見据えて、適切なものを設定してほしい。また、得られるデータでないと設定は難しいと思われる。KPI に対する見通しをお示しいただきたい。

(事務局)

測定が可能でなければ意味がない。事務局でも、もっと多くの項目を議論したが、測定可能と思われるものをお示している。施策ごとに1つもしくは2つに絞り込んだものを設定し、基本目標毎に1つは設定するイメージ。次回までに、可能な限り成案として提示したい。

(会長)

分科会以外のところでご意見があればご発言いただきたい。データにしなくてはいけないので十分事務局で検討いただきたい。本日は大よその合意を得たいと考えている。

(委員)

人口減少の為に何を一番に取り上げるのかと聞いて、若い女性の定住を重点項目とすると回答されたが、我々で何ができるか考え、専修学校卒業生について調べた。

【説明省略】

できたかできなかったかという KPI でも、可能かどうか。

(事務局)

現段階では数値で KPI を設置すると理解している。可否での設定は確認する。

PDCA をどの様に運用していくかについては改めて示すが、KPI の達成の有無だけではなく、目指す姿・取り組みの方向性、数字を見ながら全体を評価していく。したがって、KPI を数値以外で設定することも可能であると考えます。

(委員)

まちづくり分科会の報告の中で、7 ページの KPI について、町内事業所における女性正規雇用率を削除するという話だったが、男女共同参画に携わる姿勢を打ち出しておいて、これを削除するのはいかがなものかと思う。町全域では難しいかもしれないが、行政・介護・看護・保育等だけでも是が非でも記載していただきたい。介護士、看護師、保育士などの女性の正規雇用率を出しておけば、若い女性が資格を取って残ってくれるのではないかと。

(事務局)

業種限定であれば測定可能であると考えている。前向きに検討させていただきたい。

(委員)

しごとづくりに関して、たたら、ヘルスケア、農×食、観光振興、企業誘致等、多岐にわたり、同じ軸で行うのであれば奥出雲らしさにかけるのではないかと。予算があればどれもやりたい事業ではあるが、優先順位をつけるのは審議会を考えるべきではないかと。細かな施策については戦術ではなく戦略で議論すべき。

(会長)

優位性については以前から課題であった。町としては関連するものは載せたいという思いがある。しごとだけに関わらず優先順位をつける事で奥出雲らしさが表れる。これを作っていく上での戦術・戦略が必要かもしれない。

(事務局)

限られた予算の中で、優先順位は当然考えていかなければいけない。緊急度、実現性の問題も然

り。委員からこれを優先して、というご意見があればいただきたい。最終的な実施に関しては緊急度、実現性、予算等ふまえ議会での審議もある。可能な限り書き方の順番等で対応したい。

若い数字のほうが、優先的だと考えている。その中で、順番を変えたほうが良いのではというご意見があれば伺いたい。

(会長)

施策3の方向性については、決定しているが、順番性に重みがある、優先順位がある等意見がありましたら意見を頂戴したい。言い足りないことがあれば、8月20日までに事務局へメールなり電話なりしていただきたい。補足するのであれば1ページのような図を使って施策体系を構造化する必要がある。4回しかない審議会でやれることは限られているが、残された審議会の中で多くの意見を頂ければと思う。最後の審議会では、最低でも1週間前には原案を送付し、目を通せるようにしてほしい。

(事務局)

9月13日の奥出雲町100人未来会議では人口ビジョンと3ページをご報告する予定である。

分科会の議事要旨については町のホームページにアップさせていただきたく思う。ご了解願いたい。1回目、2回目の審議会については7月21日時点で既にアップしている。

閉会

以上